

東日本大震災では、関東地方を中心に地盤の液状化で家が傾く被害が広がった。3万7千世帯が被災した千葉県浦安市の例は記憶に新しい。地盤の強弱は、ある程度は見分けられる。NPO法人住宅地盤品質協会の高安正道さんは、「一般的に低地は地盤が弱く、高台は強い傾向がある」と話す。川沿いの低地や臨海部の埋め立て地、池や沼を埋めていた場所などは液状化が起きやすいという。

「そ」で、まずは地図を見

地理院発行の現在の地形図に加え、大きな図書館などで過去の地形図も見れば、地形に加えて土地の成り立ちも分かる。台地や丘陵の上の平らな土地や、古くから家や神社がある土地は安全なことが多い。主に大都市圏を対象に発行されている「土地条件図」は、地形が色分けされていて見やすい。

自治体の液状化予測図やハザードマップ、地盤調査データも参考になる。国土交通省のウェブサイトにある「宅地の液状化対策」のページでも各地の情報が得られる。

00年に施行され、今は住宅を建てる前に地盤調査をすることが通例となつた。戸建ての場合は、重りを載せた鉄の棒を地面に突き立て、重さや回転による入り具合を調べる「スウェーテン式サウンディング(SWS)試験」が主流。建売住宅でも分譲業者に調査結果を確認しよう。

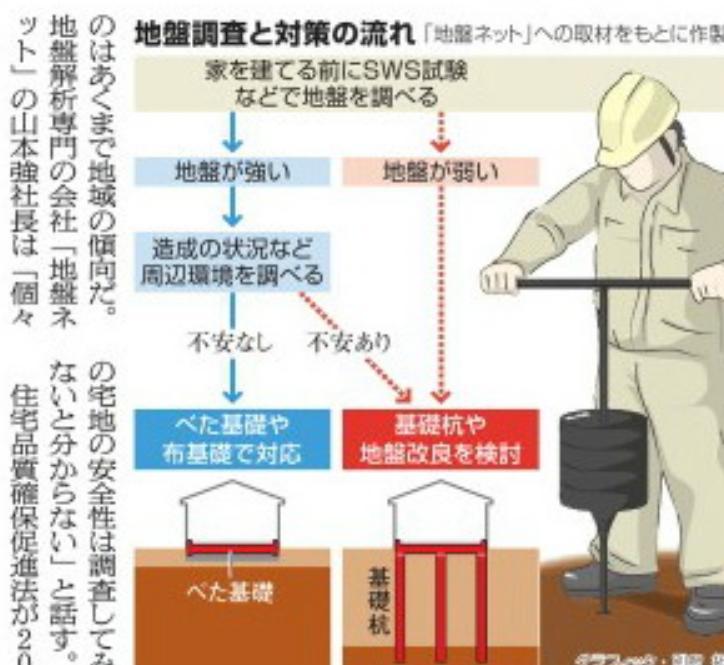
地盤に問題がなければ「布基礎」や「べた基礎」と呼ばれる基礎で対応できる。弱いと判断されば、固い地盤まで長い杭を打つか、地盤改良を勧められる。改良の工法には、地中に柱を設ける柱状改良工法や表層全体を包む工法などがある。費用は数十万



地震に備える⑤

地盤の特性を知ろう

地盤調査と対策の流れ 「地盤ネット」への取材をもとに作製



00年に施行され、今は住宅を建てる前に地盤調査をすることが通例となつた。戸建ての場合は、重りを載せた鉄の棒を地面に突き立て、重さや回転による入り具合を調べる「スウェーテン式サウンディング(SWS)試験」が主流。建売住宅でも分譲業者に調査結果を確認しよう。

地盤に問題がなければ「布基礎」や「べた基礎」と呼ばれる基礎で対応できる。弱いと判断されば、固い地盤まで長い杭を打つか、地盤改良を勧められる。改良の工法には、地中に柱を設ける柱状改良工法や表層全体を包む工法などがある。費用は数十万

00年に施行され、今は住宅を建てる前に地盤調査をすることが通例となつた。戸建ての場合は、重りを載せた鉄の棒を地面に突き立て、重さや回転による入り具合を調べる「スウェーテン式サウンディング(SWS)試験」が主流。建売住宅でも分譲業者に調査結果を確認しよう。

地盤調査と対策の流れ 「地盤ネット」への取材をもとに作製

◆ 「地盤に備える」編は終わり、次回(30日)からは家の修繕を考えます。(吉川一樹)